

毎週火、金曜日発行(但休日になるときは翌日)
昭和四年四月十五日第三種郵便物認可

鳥取県公報

目次
◇監査公告 昭和三十四年度にかかる各学校の定期監査の結果公表

監査公告

鳥取県監査公告第九号

地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第九十九条の規定に基づき、昭和三十四年度にかかる次の学校の定期監査を執行したので、その結果を次のとおり公表する。

昭和三十五年十月十五日

鳥取県監査委員	松本利治
同	萩原治郎
同	井上善一

同	戸田俊巳
監査箇所	執行年月日
境高等学校	昭和三十五年五月九日
米子工業高等学校	同日
米子南高等学校	同日
河北農業高等学校	同日
倉吉農業高等学校	同日
鳥取東高等学校	同日
鳥取農業高等学校	同日
養良農業高等学校	同日
日野産業高等学校	同日
境高等学校	同日
監査委員	松本利治
同	萩原治郎

一 本校には体育館がなく講堂を兼用しており狭い、各種競技に支障を生じているが、昭和三十六年度に新築が考慮されるに至ったことは嬉ばしい。しかし物理

及び化学実験室は一教室しかなくしかも不完全であるのにいまだ計画の段階に至っていないが早期実現の要がある。その他函室、自転車置場、手洗場及び便所の新增設、タイプライター教具の整備に努められたい。

二 校内は全般に排水が悪いので、建物維持管理上からも早期に改善の要がある。

三 防火用水池のうち一箇所は本年度同窓会館建築のため埋戻しをしていた。又現存のものも殆んど埋戻しているので非常に備えて早急に増設並びに補修の要がある。

在籍生徒数調

年 別	性別	学 年 別 生 徒 数			計	定 員	定員に対する 現員対する率
		一 年	二 年	三 年			
昭和三十四年四月七日現在	計 女 男	三〇	一〇	一八	一五	七四	七四・一
	計 女 男	三〇	一〇	二〇	一九	八九	
昭和三十五年四月七日現在	計 女 男	三三	二二	二二	一五	九	七〇・〇
	計 女 男	三三	二二	二二	一四	八四	

四 定時制課程の在籍生徒数は左表のとおりで定員百二十名に対し昭和三十四年四月八十九名、昭和三十五年四月八十四名で定員を相当数下廻っている。昭和三十五年度の入学状況は第一志望十九名、第二志望二十九名、第二次募集四名、合計五十二名許可に対し入学者は三十三名で一応定員は満たしているが、二年進学時に全日制に受替えるものもあり進級するに随つて生徒数は年々減少している実情につき、生徒の中退防止については一層努力の要がある。

五 経理出納その他事務処理については、教務、庶務、会計各間一層緊密な連携、いをとつて円滑かつ適正な事務処理に格別の努力の要がある。なお、次の点留意されたい。

- 1 現金出納事務は一層厳正を期すること。
- 2 授業料の調定人員は適確には、握し調定期間は月初めとし早期徴収整理に格別なる努力すること。
- 3 証紙収入事務処理の著しく遅れているものがあつた。
- 4 生徒の転退学等の事務処理に当つては担任の意見を附し適格に整理すること。
- 5 切手の受払簿及び通勤手当確認簿の整理は厳にすること。

米子工業高等学校

監査委員 松 本 利 治

同 萩 原 治 郎

一 本年度産振法の助成を得て二百四十万円で電気課程

基礎実験室を完成し、設備についても二百四十万円で自動制御実験装置を整備したほか、理振法による理科設備の充実を図る等科学教育振興に資すべく施設設備の充実に努力していた。しかしながら理論化学実験室の新設にも迫られており、なお、電気工作その他機械類は旧型で新型に更新を要するものが少くない。

また、本年度体育器具庫を完成したが、体育館は講堂を兼用しており僅かに九十坪しかなく狭い、であるので、これらについても早期に整備の要がある。

本校の建物は全般に老朽化し本年度も電気科実習室屋根の応急修理及び教室の窓枠の修繕をする等保全管理に努力していたが、なお、工業化学実験室屋根の修繕及び講堂窓の改装について配慮されたい。

二 本校設置課程のうち電波通信課程に専攻科を附設することにについては、前回の監査で指摘したとおりで関係当局の検討を重ねて要望する。

三 本校の実習助手は文部省乙号基準十八名に対し僅かに七名で甚しく下廻っているが、本年度整備された自

動制御実験装置の保守管理のための増員については特に考慮の要がある。
四 経理出納その他事務処理について次の点留意されたい。

- 1 郵便切手の受払は一層正確を期すること。
- 2 授業料の早期徴収整理に特に努力するとともに収納事務処理の厳正を期すること。
- 3 生徒異動に伴う手数料収入に検討を要するものがあつた。

米子南高等学校

監査委員 松 本 利 治
同 萩 原 治 郎

一 本年度産振法の助成を得て四十七万余円で温室を整備したほか、男子便所を新築していたが、本校は全般的に老朽建物が多くしかも施設は生徒数増加の割に拡充を見ずやむを得ず寄宿舎、蚕室を教室等に転用している実情で、教育運営に支障を生じているので早期に

改築整備の要がある。特に家庭科特別教室、女子保健厚生室等女子教育施設の整備について配意を望む。
二 初期防火施設及び非常の場合の避難設備については消防当局から指摘を受けており、特に養蚕実習もあつて火災危険度が高いので早期に防火施設の整備の要がある。

三 農業実習教育については、各部門毎に経営計画を樹て耕種設計によつて努力しているが、生産物の収穫量は、あく、引継処分等明確でないもの、加工原材料肥料等の受払の不明確なものその他事務処理に検討を要する点が見受けられたので、さらに、適切な事務処理につき一層努力の要がある。

四 余子分校は生徒定員百二十名に対し、昭和三十五年四月現在百四十七名を収容し、地域社会とも緊密な連けいをとつて学校運営に努力している。校舎施設については県と地元の援助によつて、本年度四百二十万余円で普通教室四教室特別教室二教室計六教室を完成し多年の懸案事項が解決したことは結構である。なお、

体育館がなく便所も不足し食物室の設備も不十分であるのでこれらについても逐次整備を望む。

本分校は実習地が極めて狭いので実習教育にはホームプロゼクトの取入れ、他機関での実習あるいは見学等適正な計画の下に実習教育に遺漏なきを期されたい。

- 五 経理出納その他事務処理について次の点留意されたい。
- 1 家畜の出納は一層正確を期すること。
- 2 分校の授業料徴収事務処理は一層適切を期すること。
- 3 通勤手当確認簿を整備すること。

河北農業高等学校

監査委員 松 本 利 治
同 萩 原 治 郎

一 本年度千百万円で鉄筋校舎三階建二百坪(管理室、普通教室三)を完成したほか、四十五万円で女子便所

並びに渡廊下を新設し、実習施設についても五十八万円で果樹園作業室二十坪を新築し、また設備についても理振法の助成を得て三十万円で理科備品を購入、その他PTA等の負担で教材教具の充実に努める等教育環境の整備充実に努力していた。しかしながらなお、運動場の拡張、特別教室の改築及び寄宿舎新設が残されているので、これらについても早期に整備の要がある。

二 本校校地面積三千五百八十四坪のうち県有地は僅かに二百三坪他は運動場とともに全部借用地である。また、実習地は本年度実習費振興基金を借入れて購入した九畝二十二歩を含めて二町四反余(うち県有果樹園六反四畝)を確保しているが、水田、そ菜園の大部分は借用地でこれらに対する年間の借地料は相当額に上つている。校地並びに実習地の逐次県有化につき当局の考慮を望む。

三 農業実習会計については水田、畑作、野菜、果樹、畜産、加工等八部門に分けて運営しているが、本校に

は県下唯一の園芸課程があり園芸には特に力を入れて実習運営に当り相当の成果をあげていることは結構である。しかしながら、勢い生産本位となるため教育教科面との調整については留意検討を要するものがある。また、加工材料に転用可能な生産物を売却し別途市場から購入する等依然として経済性を欠く点が見受けられるので、総合計画に基づく各部門間の連けいに特に留意して合理的な運営を図る必要がある。

- 四 経理出納その他事務処理について次の点留意されたい。
 - 1 生産物の引継処分等の取扱いは一属明確を期すること。
 - 2 加工原材料、肥料、飼料の受払は一属正確を期すること。
 - 3 物品購入修繕等は事務処理の正確と迅速を期すること。
 - 4 学校校舎の貸付料は徴収すべきである。

倉吉農業高等学校

監査委員	松 本 利 治
同	萩 原 治 郎
同	井 上 善 一
同	戸 田 俊 己

一 本校は校舎改築五ヶ年計画の第二年度を迎え、本年度も千五百四十万円で鉄筋校舎三階建九教室を完成したほか、産振法の助成を得て百十八万余円で畜産管理室四十坪を整備、このほか、校舎改築期同盟会寄附金百三十九万円で農場管理室等旧建物を移築転用して農具舎兼更衣室八十六坪を完成していた。

昭和三十五年度は普通教室三教室と畜産加工室の整備を計画しており、さらに、体育館等も残されているので地元負担金の確保についても配意し改築整備の促進に努められたい。

二 学校演習林については毎年計画造林を実施し現在百十五町歩(実測面積百五十町歩)のうち六十七町歩を完了していた。また、本年度も財産造成費三十万円で

下刈枝打補植して撫育管理にも努力していたが、林業職員は二名で授業実習に追われて経営管理に苦慮している実情につき実習助手または技術職員の特別配置につき重ねて要望する。

三 本校は実習地八町五反余を有し農、林、畜産、果樹、養蚕、農産加工等各部門にわたって実習教育運営に努力している。畜産課程は本年度完成年度で家畜の飼養頭数も乳牛五頭、和牛四頭、豚二十一頭、綿羊二十五頭、鶏五十羽を飼育中で施設設備も年年充実して畜産規模は拡充を見つつあり、本年度から関係職員二名で管理に当たっているが手不足となつているので賃金職員雇用について考慮の要がある。

もつとも本校家畜飼養規模は学校としては可成り大きく、このことが手不足の原因となつているので雇用財源は特会支弁とすることが至当と考へられる。

四 三朝分校における最近三ヶ年間の在籍生徒の状況は左表のとおりで生徒数は年年増加して、昭和三十五年四月現在では総数において定員を上廻つている。しか

しながら、昭和三十五年度の入学状況を見ると入学者五十一名(農業科二十二名、農村家庭科二十九名)のうち第一志望は僅かに農業科一名、農村家庭科七名、計八名しかない。

また、本年度退学者十九名のうち農業科十五名(一年生十四名、四年生一名)で特に農業科生徒は二年進級時に全日制受験のための退学者(本年十二名)が多く依然として予備校的な色彩が強い。

施設設備については、本年度本校の旧校舎を解体移転して六十万円で調理室等五十坪を完成したほか、産振法の助成を得て八十七万余円で被服室三十坪を整備し女子特別教室の充実を図つていたが、農業科関係施設設備が不十分であるので農業科生徒確保の面からも早期に整備の要がある。

三朝分校在籍生徒数調

年 別	課程別	学 年 別 生 徒 数				定 員	定員に対する 現員の率 %
		一 年	二 年	三 年	四 年		
昭和三十三年四月現在	農 業 農村家庭 計	一七 一〇 二七	一一 一一 二二	一三 一〇 二三	三七 三〇 六三	三九 二四 六三	一一〇 五二・五
昭和三十四年四月現在	農 業 農村家庭 計	二七 二七 五四	一〇 一〇 二〇	一〇 一〇 二〇	三七 三〇 六三	五四 四六 一〇〇	一一〇 八三・三
昭和三十五年四月現在	農 業 農村家庭 計	二二 二九 五一	一四 二七 四一	一〇 一五 二五	一〇 一九 二九	五六 七〇 一二六	一一〇 一〇五・〇

五 経理出納その他事務処理について次の点留意された
い。

- 1 原材料購入事務処理の遅れているものがあつた。
- 2 肥料の受払は一層正確を期すること。
- 3 木炭生産検査手数料証紙の受払を実施すること。

鳥取東高等学校

監査委員 松 本 利 治

同 荻 原 治 郎

同 井 上 善 一

一 本校校舎は専攻科設置のしわ寄せを受けて普通教室が不足し教育運営に支障を生じている。また、教員室も狭く特別教室特に芸能科教室が不足しているので早

期に増築整備の要がある。
なお、建物小破損箇所については平素保全に努められたい。
運動場は体育館新築により著しく狭あいになつていたが、本年度県費二百二十万三千円(うち半額DT A負担)で隣接地七百四十一坪を購入し目下整備中であつた。

専攻科入退学並びに大学合格状況調

性 別	入 学 志 願 者 数			入 学 者 数			中 途 退 学 者 数	卒 業 者 数	大 学 合 格 者 数	合 格 率
	四 月	九 月	計	四 月	九 月	計				
男	九四	二三	一二七	七七	一八	九五	二一	七四	五〇	六七・六
女	七	一	八	六	一	六	二	四	二	五〇・〇
計	一〇一	二四	一二五	八三	一八	一〇二	二三	七八	五二	六六・七

状況は左表のとおりで、募集定員約五十名に対し前期八十三名、後期十八名計百二名入学せしめ二学級編成で運営していたが、中途退学者が二十三名あつて結局七十八名卒業していた。卒業者のうち大学合格者は五十二名(延六十五名)で六六・七パーセントの合格率である。
今後いよいよ実績向上のため格別の努力を望む。

三 経理出納その他事務処理はおおむね適正に処理されているものと認めた。

鳥取農業高等学校

監査委員 松本治郎
同 荻原治郎
同 井上善一

一 本年度産振法の助成を得て木工室(三十坪八〇六、〇〇〇円)及び牛乳処理室(六坪一七四、〇〇〇円)を整備し、設備についても理振法及び図振法の助成を得て内容の充実を図り、また、玄関前及び中庭の美化に努める等教育環境の整備に意を用いていた。

しかしながら渡廊下、生徒昇降口が不足し、実習施設についても農場納屋、水肥舎がなく堆肥舎も不足しているほか、選択科目教室、和裁兼礼法室、武道場等の必要が認められるので、これら諸施設についても急を要するものから逐次整備に努められたい。

二 本校実習地のうち畑地百二十アールにわたつて砂地かんがいパイプが敷設されスプリンクラー一式も地元の援助で完備し砂地かんがい問題が解決したことは結構である。しかしながら水田は僅かに四、二アールし

がなく市の援助でビニール水田を設ける等砂丘地開発研究に努力しているが、いずれにしても水田の不足が実習教育運営上の隘路となつているのでこれが確保に努められたい。

三 本年度実習会計収支状況は当初計画百一十四千余円の生産目標を樹てその収入額は百二十九千余円、これに対し支出は九十六万二千円で六万七千余円の赤字決算をしている。しかしながら内容を検討して見ると生産収入に追われるため各部門内共に相当無理な運営を余儀なくしている面が見受けられる。もつとも本校は新設校で実習地も少なくしかも殆んど砂丘地である等の悪条件下にあつて経営に苦慮していることは認めらるが、教育教科との調整は勿論、さらに、各部門毎の適正な実習計画の決定とこれが実施につき慎重留意検討し健全かつ円滑な実習運営を図るよう格別の努力を望む。

四 鹿野及び美和両分校の在籍生徒の状況は左表のとおりで、鹿野分校は昭和三十五年四月の生徒数は五十四

在籍生徒数調査

分校名	年 別	課程別	学 年 別 生 徒 数				定 員	定員に対する現員の割合
			一 年	二 年	三 年	四 年		
鹿 野	昭和三十三年四月現在	農業 農村家庭 計	一四 一五 二九	一三 一五 二八	二〇 二一 二二	二四 四四 六四	一六〇	四〇・〇
	昭和三十四年四月現在	農業 農村家庭 計	一六 一七 三三	一五 一六 三一	一五 一五 三一	一八 一九 三六	一六〇	三八・一
	昭和三十五年四月現在	農業 農村家庭 計	一六 一七 三三	一七 一七 三三	一八 一八 三六	二一 二二 四三	一六〇	三三・八
	昭和三十三年四月現在	農業 農村家庭 計	一六 一六 三二	一六 一七 三二	一五 一五 三〇	一七 一七 三三	一六〇	三三・八

名で定員を著しく下廻り、しかも近年減少の傾向にある。昭和三十五年度の入学状況を見ても定員四十名に対し第一志望十名、第二志望五十八名計六十八名許可したが、入学者は僅かに十六名で依然として生徒は極端に少なく、かくては学校存続の意義が乏しいので生徒の確保については格別努力の要がある。

また、美和分校は定員を確保し在籍生徒数は年増

加しているが、校舎は新築移転後増築を見ず教室の絶対数が不足し、内容設備も不十分で教育に尠からず支障を生じている。本校には新築移転当時の地元負担金の内部未済の問題が現在なお、未解決でこれが施設設備充実整備促進上の隘路ともなつているものと思考されるので適切な指導援助による早期解決につき当局の配意を望む。

美和		昭和三十四年四月現在		昭和三十五年四月現在	
計	農業 農村家庭	計	農業 農村家庭	計	農業 農村家庭
四八	三二	三八	六六	四二	一〇
三七	二六	四〇	一四	三一	五
二八	一九	三五	一六	三八	一三
八	九	二二	一三	三二	一五
一一一	八六	一三五	四九	一四三	四三
一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇
一〇〇・八	一一二・五				

五 経理出納その他事務処理につき次の点留意された
い。

- 生徒(特に分校)の転退学等の事務処理にあたっては担任の意見を附し整理すること。
- 肥料、飼料、加工原材料の受払は一層厳格を期すること。
- 生産収入調定事務処理の遅れているものがあつた。
- 物品購入事務手続の遅れているものがあつた。
- 現金出納事務で不備のものがあつた。
- 授業料調定人員は適確に把握すること。

7 予算流用は会計規則に基づき処理すること。

養良農業高等学校

- 監査委員 松本利治
同 萩原治郎
同 井上善一
同 戸田俊己
- 一 本校の校舎は概ね整備され、本年度は産振法の助成を受けて九十万円を牛舎を改築したほか、百二十九万円を酪農設備を充実しその他PTA等団体の援助を得て家庭科用品ピアノを購入する等特に内容設備の充実

に努力していた。しかしながら校地が狭く運動場は僅かに文部省基準の四分の一度度しかなく狭い、であるので拡張整備の要がある。なお、十五号台風の際の高潮のため運動場の損傷が甚しく応急修理はしていたが、護岸の根本的な補強完備についても当局の配意を望む。

二 実習地の集団化は難事業ではあるが、往復に相当の時間を空費し教育上の大きな欠点、路になつていて、引続き努力を望むとともに遠隔地には適当な飼料作物を栽培する等利用面についても工夫せられたい。

三 実習会計の収支状況は当初生産計画七十九万三千余円に対し収入実績は七十五万七千余円、支出額は七十二万六千余円で三万一千余円の赤字決算をしている。

実習運営に当つては水田、畜産、そ菜、加工等七部門に分けて運営しており、本年度産振法特別設備の助成を得て乳牛三頭を導入したほか、搾乳機、低温処理機を整備する等特に畜産部門に力を注いでいたが購入が年度末であつたため本年度は生産収入を見るまでに

至らなかつた。家畜の飼料対策及び飼養管理については特に留意するとともに、総合計画のもとに各部門の連けいを一層緊密にして合理的な運営を図り教育の効果があがるよう格別の努力を望む。

四 経理出納その他事務処理について次の点留意された
い。

- 加工原材料、肥料、飼料の受払を一層明確にすること。
- 燃料の購入にあつては注文量のはあく検収を一層厳格にすること。
- 家畜の処分伺と動物出納簿に不突合があつた。

日野産業高等学校

- 監査委員 松本利治
同 萩原治郎
同 井上善一
同 戸田俊己
- 一 本館は大正九年創立当時の建物で老朽化し、中校舎

を改造した狭あい、かつ危険建物でいずれも早期に増改築整備の要がある。

また、実習施設設備については、本年度産振法の助成を得て四十九万余円で温室を整備したほか、実習費振興基金の借入れを受けて耕耘機等農業機械の充実に図つていたが、畜産加工室及び鶏舎の新築、農業管理室の補強、収納舎の修繕、上水道配管、南棟校舎補修等の必要にも迫られているので逐次整備されたい。

二 商業実践設備について、本年度十萬円で実践用机等を購入し一応整備を見たが、なお、タイプ、商品見本が不足し、また、理科設備については理振法の適用によつて二十五萬円で充実にいたが基準に対し十五%で、なお、不充分であるのでこれら設備の充実にについても配慮されたい。

三 実習地は水田八反八畝、畑二町二反四畝余歩(飼料園、栗園、苗圃、果樹園を含む)あつて作物、野菜、畜産、加工等七部門に分けて運営し、当初生産計画百十五萬円に対し百二十八萬余円の収入実績をあげてい

る。特に畜産部門にあつては現在和牛一頭、乳牛三頭、豚十二頭(成畜一、幼畜一一)綿羊二頭、鶏四十六羽を飼養し、このほか牛乳の委託加工を実施し、年間生産収入の大半を占めている。しかしながら家畜等の生産状況を見ると必ずしも良好と認められず、小家畜も年間相当死亡している実情からして、家畜の飼養管理については一層工夫研究して万全を期する必要がある。なお、生産物の収穫量はあく、引継処分にも明確を欠くものその他事務処理に検討を要する点も見受けられたので、さらに適正な事務処理につき配慮されたい。

四 経理出納その他事務処理について次の点留意されたい。

- 1 家畜の出納は一層適正を期すること。
- 2 加工原材料、肥料、飼料の受払は一層正確を期すること。
- 3 領収現金は早期に収入手続きをすること。
- 4 物品購入、修繕簿の同年月日を記入すること。
- 5 特別会計歳入調定は予算科目別に調定すること。

昭和四年四月十五日第三種郵便物認可 発行日 火 金

発行者 鳥取県鳥取市東町一丁目
印刷所 鳥取県鳥取市栗谷町
[定価 一部月極一三〇円(配送料共)] 印刷所 鳥取県